

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320047

研究課題名(和文) 観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル・アーカイブを活用した新しい能楽史の構築

研究課題名(英文) The new study on the history of Noh utilizing the digital archive of Noh-Related Documents in the Kanze Bunko

研究代表者

松岡 心平 (Matsuoka, Shimpei)

東京大学・総合文化研究科・教授

研究者番号：70173812

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円、(間接経費) 4,050,000円

研究成果の概要(和文)：観世文庫の能楽関係資料は、質・量ともに能楽に関する最重要の資料群である。本研究では、これらの資料の調査・研究に基づき、インターネット上で画像と解題を公開するデジタル・アーカイブ「観世アーカイブ」を拡充させると共に、これを利用して、近世能楽史の研究を大きく進めた。特に、15世観世大夫元章(1722～74)の能楽改革に関する研究に重点を置き、観世元章に関する用語集と関係書目、年譜をまとめ、刊行した他、元章による注釈の書入れが顕著な謡本『爐雪集』の翻刻と検討を行った。さらに、観世文庫に世阿弥自筆能本が残る「阿古屋松」の復曲を行い、観世文庫資料の展覧会でも研究成果を公開した。

研究成果の概要(英文)：The Kanze Bunko Library holds some of the most important documents related to the Noh theater. Over the course of our research, we have investigated these documents and expanded the online digital archive ("Kanze Archive"), which provides access to a variety of images and explanatory notes. The archive has allowed us to make great progress in researching the history of early-modern Noh. In particular, our research has focused on the important innovations of Kanze Motoakira(1722-74), the 15th head of the Kanze school. We edited and published a glossary of Motoakira's terminology, a catalogue of his texts, and a chronology of his life. We also reproduced and examined a copy of the utaibon "Rosetsusyu" containing Motoakira's annotations. Furthermore, we staged the play "Akoyanomatu", the script for which is written in Zeami's hand and held by Kanze Bunko, and we also held an exhibit of Kanze Bunko documents to publicize the results of our research.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：能楽

1. 研究開始当初の背景

観世宗家には、室町時代から現代に至るまで代々守り伝えられてきた貴重な能楽資料があり、1991年にその保存・活用を目的として財団法人観世文庫が設立された。このうち文献資料については、法政大学能楽研究所による調査の成果が「観世宗家所蔵文書目録」として公開されたが、対象となったのは室町期の文献及び江戸期の謡本(写本)のみで、文庫の大半を占める近世・近代の膨大な資料のほとんどが未整理のまま残されていた。

2002年、観世文庫が新たな資料保管設備を整えるにあたり、財団理事である松岡心平に対して、文献資料のアーカイブ化を前提とした包括的な調査の依頼があった。松岡は国文学研究資料館の協力のもとで調査チームを編成し、2003年より調査を開始した。2006年からは、松岡を研究代表者とする科学研究費補助金・基盤研究(A)「観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル画像化と解題目録作成に向けた総合的研究」の交付を受けて調査が大きく進展し、観世文庫に寄贈・寄託された六千点に及び文献資料の書誌調査及び写真撮影を完了、これをデータベース化した。その成果を、能楽や日本文化に関心を持つ世界中の人々に公開するために、2009年10月「観世アーカイブ」を設置し、これを記念した展覧会「観世家のアーカイブ 世阿弥直筆本と能楽テキストの世界」(東京大学駒場博物館、2009年10月10日~11月29日)でも調査の成果を公開した。

観世文庫の能楽関係資料のデータベースがウェブ公開されたことで、世界中どこからでもこうした資料の書誌データと画像を閲覧することが可能になった。しかし、公開当初のデータベースには不十分な点が多くあり、これをさらに充実させ、より利便性の高いものにしていく必要があった。また、新しい能楽史の構築という大きな研究目的は、まだ端緒についたばかりであり、継続して調査・研究を進める必要がある。そこで、先述の科学研究費補助金による調査メンバーをほぼ引き継ぐ形で、観世文庫所蔵資料の調査を続け、研究を進める計画を立てた。

2. 研究の目的

観世文庫に寄贈・寄託されている観世宗家伝来能楽関係資料は、世阿弥自筆本や代々の観世大夫関係文書をはじめとした、質・量ともに能楽に関する最重要の資料群である。従来殆ど公開されていなかったが、観世文庫ならびに観世清和氏の全面的な御理解を得て、松岡心平を代表とする能楽研究者が調査・撮影し、2009年10月、解題を付してインターネット上で広く書影を公開するデジタル・アーカイブを構築した。この資料群のウェブ公開と今後のさらなる研究が、能楽史研究、能の作品研究、演出研究、能楽論研究などに与える恩恵は計り知れないものがある。本研究

では、アーカイブを充実させると共に、これを活用することにより新しい能楽史の構築をめざし、世界遺産となっている能楽の一層の進展に寄与しようとするものである。

3. 研究の方法

観世文庫所蔵能楽関係資料のうち、未整理資料に関しては、調査と撮影を進め、書誌・解題を付け、データベースに組み込んでいった。また、既整理資料に関しては、インターネット上でも公開しているデータベースを検索し関連資料を抽出、画像・書誌データを検討した上で、観世文庫の原本調査(また必要に応じて他機関所蔵の関連文献の調査)を行い、観世文庫の資料全体の中での位置づけや、能楽史研究における意義を明らかにする作業を進めた。これにより、新たに判明した情報を付加しつつ、この「観世アーカイブ」の拡充とメンテナンス作業を行い、より利便性の高いデータベースに更新した。

こうした作業と平行して、観世元章の能楽改革の問題を重要テーマに設定し、そうしたテーマを検討する研究会を立ち上げ、近世能楽史研究を大きく進展させることを図った。

4. 研究成果

(1) 観世文庫の文献資料調査

2010年6月5日に最初の全体会議を開き、2006年から4年間にわたって行われた、科学研究費補助金基盤研究(A)「観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル画像化と解題目録作成に向けた総合的研究」(研究代表者:松岡心平)による調査に基づいて作成したデジタル・アーカイブ「観世アーカイブ」の利便性を高めるための方針と、今後の作業分担を定めた。その上で、研究分担者および10名余の研究協力者によって構成されるチームで、随時、原本の再調査を行い、資料の書誌解題の見直し、及び拡充作業を進めた。また、観世文庫の文献資料のうち、これまで未整理のままになっていた400点余りの近世資料の調査を行い、整理番号や書名を付け、基本的な書誌データを採取するとともに撮影を行った。撮影した画像データはメンバーで共有し、解題目録データベースの基礎稿を作成した。具体的には、観世文庫の文献調査は、2010年8月20~23日、9月21・22日、12月17~20日、2011年2月5~7日、5月28~30日、7月17日~19日、9月18~20日、12月23~25日、2012年2月11~13日、5月3~5日、7月21日~23日、8月25~27日、11月23~25日、2013年2月2~4日、7月6~8日、12月25~27日、2014年2月21~23日にわたって行い、解題データベースの完成に向けた書誌情報を集約することができた。この原本調査により、すでに撮影したデジタル画像に基づいて作成していた資料解題を見直し、新たな書誌情報を加え、その結果を文献データベースに統合した。また、「観世アーカイブ」のサイトのデザインを修正し、近年のウ

ェブ環境の変化に対応すると共に、専門家以外にも使いやすくした。

なお、「観世アーカイブ」は、現在、能楽研究を行う際に必須のデータベースとなりつつあるばかりか、2011年にはアート・ドキュメンテーション学会「第5回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション推進賞」を受賞するなど、内外から高い評価を受けている。

(2) 観世文庫資料の研究

研究分担者・研究協力者によって構成される研究会を発足させ、15世観世大夫元章(1722~74)による能楽改革をテーマとする調査・研究を行った。観世元章は、近世能楽史の中核に位置する大夫で、その事績の解明は、近世能楽史の重要課題であった。この研究会では、観世元章による能の考証や演出の検討、元章の交流圏など、多くの点が問題となり、研究メンバーそれぞれが元章に関する個別の研究論文を準備すると共に、元章をめぐる重要テーマを探求し、研究資料目録や年譜などの作成を進めた。特に、元章による注釈の書入れが顕著な謡本『爐雪集』については、研究協力者を中心に書入れの翻刻作業を進めると共に、研究会において引用書目の検討などを行い、能楽改革の背景にどのような謡曲理解があったのかを探った。また、能楽学会東京例会(2010年10月25日)においては、「観世文庫の観世元章関係資料をめぐって」という共通テーマを設けて、研究分担者・研究協力者が元章手沢謡本など観世文庫の文献資料を用いた発表を行った。

2014年には、こうした研究の成果として、松岡心平編『観世元章研究基礎資料』(檜書店作製)を刊行した。本書は、第一章「観世元章関連用語集」・第二章「観世元章関係書目と年譜」からなるもので、観世文庫所蔵資料の形成にあたって重要な役割を果たした観世元章の事績のかなりの部分が明らかになったといえる。「観世アーカイブ」によって、元章に関する膨大な新資料の発見と検討が可能になったことが、こうした研究成果に結実したといえる。

(3) 「阿古屋松」の復曲と研究成果の展示

研究協力者の中尾薫氏を中心となった企画展示「世阿弥を継ぐ 観世大夫元章の革新」(2011年11月1日~12月22日、早稲田大学演劇博物館)では、観世文庫の資料を多数出陳し、これまでの研究成果を公開した。また、平成23年12月から国立能楽堂において始まった企画公演「世阿弥自筆本による能」に合わせ、国立能楽堂資料展示室で観世文庫展を行い、演目の「布留」「難波」「松浦佐用姫」などに関連する観世文庫資料を解説と共に展示した。

観世文庫に世阿弥自筆本が残る「阿古屋松」の復曲については、以前より研究代表者・松岡心平監修のもと検討を重ねてきたが、2012年4月27日、国立能楽堂で上演するこ

とができた(シテ:観世清和。企画公演「世阿弥自筆本による能」最終回)。この上演にあわせ、国立能楽堂資料展示室での観世文庫展では、世阿弥自筆本「阿古屋松」をはじめ、関連する観世文庫資料を展示し、解説を付して研究成果の一端を公開した。

また、2012年12月27日~2013年1月21日まで松屋銀座、2013年4月3日~5月26日まで京都・相国寺承天閣美術館、2013年10月19日~11月24日まで名古屋・松坂屋美術館において開催された観世宗家展(いずれも観世清和・松岡心平監修)でも、世阿弥伝書をはじめとする観世文庫資料に解説を付して展示し、研究成果を広く公開した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 29件)

(1) 松岡心平、天野文雄、小川剛生、落合博志、小林健二、高桑いづみ、高橋悠介、橋本朝生、宮本圭造、山中玲子、横山太郎他、「観世文庫の文書」13-60、『観世』77 4~81 3、査読無、2010~2014、いずれもpp.1 1

* 各回に取り上げ紹介した観世文庫の資料名(=論文表題)と解題担当者(研究分担者及び研究協力者)を、発表順に以下に記す。「舞台橋掛り下釣瓶絵図」(柳瀬千穂)・「茶色表紙五番綴番外謡本」(江口文恵)・「下間少進書簡写」(青柳有利子)・「輪蔵・咸陽宮・竹生島・富士太鼓・春日龍神型付」(中司由起子)・「明治二十四年檜常之助刊一番綴謡本」(井上愛)・「片山豊慶手沢『聞書』」(山中玲子)・「春藤流習脇」(天野文雄)・「文禄三年二月從六日至十三日薪之御能次第」(小林健二)・「水中影光集(中尾薫)」・「伊勢伊勢守貞孝筆『能故実書』」(落合博志)・「宝暦十二年『萬輝宗旭法名下炬授与書』」(長田あかね)・「観世元章手沢紺表紙一番綴謡本『賀茂』」(高橋悠介)・「装束古製帳」(小川剛生)・「江村家旧蔵鷺流狂言本」(橋本朝生)・「観世左近・三十郎宛観世新九郎書状」(宮本圭造)・「元文五年十一月十二日 於二丸御能「関寺小町」演能次第」(横山太郎)・「無刊記観世流五番綴謡本(正徳弥生本)」(伊海孝充)・「一噌平岩一札写」(高桑いづみ)・「『副言巻』第九冊草稿」(橋場夕佳)・「田安於御屋形御面写数御謡本章数御咄之事共承り候趣色々御意を書留ル」(柳瀬千穂)・「明治期写部分謡本「木曾願書」」(恵阪悟)・「能絵図」(深澤希望)・「舞台仕様書」(江口文恵)・「京都観世屋敷関係史料」(天野文雄)・「享保十九年二月二十二日於西ノ丸観世織部姨捨演能次第」(中司由起子)・「観世家歴代花押・名乗り等書留」(井上愛)・「片山豊恭より福王甚五郎へ言上状」(山中玲子)・「御稽古之控」(青柳有利子)・「観世元章編『能楽諸家等過去帳』」(落合博志)・「観世清暘遺言状」(小林健二)・「観世清親筆「あつめ書」」(鶴

澤瑞希)・「陶嶺宗鉗筆贈觀世元章詩文」(長田あかね)・「二月三日付成身院宛て細川持常書状」(小川剛生)・「列帖装小型中本「恋のおもに」」(高橋悠介)・「觀世元章筆『二曲三体集』」(中尾薫)・「福王甚五郎出勤停止につき言上状」(宮本圭造)・「秘事之舞」(横山太郎)・「邯鄲抄」(伊海孝充)・「生田敦盛佐詞短様」(橋場夕佳)・「七夕和歌他」(柳瀬千穂)・「役者病気欠勤につき書付」(恵阪悟)・「作り花御達につき書状下書き」(深澤希望)・「觀世織部宛藤本筑後守書状」(江口文恵)・「行幸并仙洞日光朝鮮人御馳走御能組」(井上愛)・「寛永三年二条城能組」(青柳有利子)・「道成寺型附」(中司由起子)・「万治三年安休追善能扣」(落合博志)・「福王神五郎宛門弟書状」(小林健二)

- (2)横山太郎、世阿弥時代の舞の身体 白拍子舞と乱拍子のリズム『観世』81 2、査読無、2014、pp.26 35
- (3)松岡心平、「鶉羽」のなりたち、『観世』80 10、査読無、2013、pp.26 33
- (4)松岡心平、能の舞と音楽の進化論、「檜垣蘭拍子」公演パンフレット(観世会)、査読無、2013、pp.4 5
- (5)松岡心平、「道成寺」と乱拍子 能の古層の責めの身体、『能を読む4 信光と世阿弥以後 異類とスペクタクル』(角川学芸出版) 査読無、2013、pp.487 499
- (6)松岡心平、元雅の精神的地平 世阿弥との亀裂、『能を読む3 元雅と禅竹 夢と死とエロス』(角川学芸出版) 査読無、2013、pp.533 549
- (7)天野文雄、禅竹の能における「情調」とその背景 禅竹が芸論で説く「闌曲」「閑曲」をめぐって、『能を読む3 元雅と禅竹 夢と死とエロス』、査読無、2013、pp.583 598
- (8)天野文雄、「風流能」の詞章とその構造 「叙事文」と「地謡」をめぐって、『能を読む4 信光と世阿弥以後 異類とスペクタクル』、査読無、2013、pp.500 517
- (9)天野文雄、世阿弥の《砧》続考、『観世』80 11、査読無、2013、pp.24 35
- (10)天野文雄、『花伝』第六花修をめぐる諸問題、『国学院雑誌』114-11、査読無、2013、pp.1 19
- (11)天野文雄、近世初期能楽界の一動向 『万治三年大蔵主馬能伝書』の「役者評」をめぐって、『芸能史研究』203、査読有、2013、pp.90 105
- (12)小川剛生、世阿弥の少年期(上) 「不知記」(崇光院宸紀)を読み直す、『観世』80 4、査読無、2013、pp.22 31
- (13)小川剛生、世阿弥の少年期(下) 醍醐寺と新熊野社、『観世』80 5、査読無、2013、pp.28 37
- (14)落合博志、『申楽談儀』用語考二題 「うるわしき為手」「前後しノ書く」、『能と狂言』11、査読有、2013、pp.106 112

- (15)高桑いづみ、鷺流狂言の小舞謡 無形文化遺産部所蔵「山口鷺流小舞謡」の記録をめぐって、『無形文化遺産研究報告』(東京文化財研究所)7、査読無、2013、pp.1 18
- (16)高橋悠介、觀世大夫家における世阿弥自筆能本 国立能楽堂「觀世文庫」展を通して、『平成二十三年度国立能楽堂企画展示「觀世文庫展」報告書』(国立能楽堂調査資料係編) 査読無、2013、pp.2 7
- (17)横山太郎、白拍子として舞うこと 檜垣蘭拍子再考、「檜垣蘭拍子」公演パンフレット(観世会) 査読無、2013、pp.6 7
- (18)松岡心平、実方に舞を捧げる塩竈明神(二) 能「阿古屋松」の一断面、『観世』79 4、査読無、2012、pp.36 41
- (19)松岡心平、実方に舞を捧げる塩竈明神 能「阿古屋松」の一断面(一)、『観世』78 12、査読無、2012、pp.28 37
- (20)松岡心平、『布留』の水の女、聖婚と新嘗の記憶、『観世』78 9、査読無、2011、pp.28 37
- (21)松岡心平、言葉のつかい手、世阿弥、『観世』78 7、査読無、2011、pp.32 38
- (22)天野文雄、『松浦佐用姫』を読む その「趣向」を中心に、『観世』78 12、査読無、2011、pp.26 34
- (23)小川剛生、足利義満の太上天皇尊号宣下、『藝文研究』101 2、査読有、2011、pp.20 43
- (24)落合博志、<檜垣>の構想 つるべと輪廻の喩について、『能と狂言』9、査読無、2011、pp.134 136
- (25)落合博志、世阿弥筆能本『松浦之能』筆跡小考 袖に涙のさわやかな、『観世』78 12、査読無、2011、pp.35 39
- (26)高橋悠介、禅竹能楽論における「一露」「一水」と胎生学、『能と狂言』9、査読有、2011、pp.56 69
- (27)横山太郎、能<土蜘蛛>、『鳥獣虫魚の文学史<3>虫の巻』(三弥井書店)、査読無、2011、pp.174 194
- (28)松岡心平、「呉服」の誕生 世阿弥最後の祝典曲、『観世』77-11、査読無、2010、pp. 58-65
- (29)松岡心平、世阿弥は奈良のどこにいたか、『観世』77-6、査読無、2010、pp.26-35

[学会発表](計 7件)

高桑いづみ、「[上ゲ歌]形成試論」、楽劇学会第21回大会、於国立能楽堂大講義室(東京都渋谷区) 2013.7.14.
 天野文雄、「応永六年一定竹ガ鼻勳進猿楽の「場」とその目的」、能楽学会第12回大会、於早稲田大学・小野記念講堂(東京都新宿区) 2013.5.27.
 松岡心平、「和歌の美学・方法と世阿弥の能」、能楽学会第12回大会、於早稲田大学・小野記念講堂(東京都新宿区)、2013.5.26.
 高桑いづみ・落合博志、「世阿弥作《四季

祝言》《敷島》の復元」、能楽学会第12回大会、於早稲田大学・小野記念講堂(東京都新宿区)、2013.5.26.

横山太郎、「金剛謹之助の映像とその時代」、能楽学会第18回能楽フォーラム、於京都女子大学(京都府京都市)、2012.3.4

横山太郎、「能楽研究は近代能楽に何をもたらしたのか」、能楽学会2011年度世阿弥忌セミナー、於奈良国立博物館(奈良県奈良市)、2011.8.8.

高橋悠介・中尾薫、「観世文庫の観世元章関係資料をめぐって」、能楽学会例会、於東京大学駒場キャンパス(東京都目黒区)、2010.10.25.

〔図書〕(計 7件)

高橋悠介、慶應義塾大学出版会、『禅竹能楽論の世界』、2014、472

松岡心平・天野文雄・土屋恵一郎、中沢新一編、角川学芸出版、『能を読む4 信光と世阿弥以後 異類とスペクタクル』、2013、606

松岡心平・天野文雄・土屋恵一郎、中沢新一編、角川学芸出版、『能を読む3 元雅と禅竹 夢と死とエロス』、2013、650

松岡心平・天野文雄・土屋恵一郎、中沢新一編、角川学芸出版、『能を読む2 世阿弥 神と修羅と恋』、2013、660

松岡心平・天野文雄・土屋恵一郎、中沢新一編、角川学芸出版、『能を読む1 翁と観阿弥 能の誕生』、2013、558

小川剛生、中央公論新社、中公新書 2179 『足利義満 公武に君臨した室町将軍』、2012、298

松岡心平、山川出版社、『能 大和の世界』、2011、195

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

・観世アーカイブ

<http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/kanzegazo/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松岡心平(MATSUOKA, Shimpei)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：70173812

(2) 研究分担者

天野文雄(AMANO, Fumio)
大阪大学・大学院文学研究科・名誉教授
研究者番号：90201293

磯田道史(ISODA, Michihumi)

静岡文化芸術大学・文化政策学部・准教授
研究者番号：00375354

小川剛生(OGAWA, Takeo)

慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：30295117

落合博志(Ochiai, Hiroshi)

人間文化研究機構国文学研究資料館・研究部・教授
研究者番号：50224259

小林健二(Kobayashi, Kenji)

人間文化研究機構国文学研究資料館・研究部・教授
研究者番号：70141992

高桑いづみ(TAKAKUWA, Izumi)

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・無形文化遺産部・室長
研究者番号：60249919

高橋悠介(TAKAHASHI, Yusuke)

神奈川県立金沢文庫・学芸課・学芸員
研究者番号：40551502

橋本朝生(HASHIMOTO, Asao)

山梨大学・教育人間科学部・教授
研究者番号：30091838
*2011年9月まで研究分担者。

宮本圭造(MIYAMOTO, Keizou)

法政大学・能楽研究所・教授
研究者番号：70360253

山中玲子(YAMANAKA, Reiko)

法政大学・能楽研究所・教授
研究者番号：60240058

横山太郎 (YOKOYAMA, Tarou)
跡見学園女子大学・文学部・准教授
研究者番号：90345075